第29期社会教育委員の会議

第8回定例会

議事録

令和4年2月18日

【1】開催日時

令和4年2月18日（金）18時00分～20時00分

【2】開催場所

リモート会議

【3】出席委員

坂倉委員（議長）、堀井委員（副議長）、小泉委員、奥平委員、鍵和田委員、村上委員、権田委員、山崎委員、吉岡委員、新海委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

大井社会教育係長、御園生社会教育担当係長

【5】傍聴人

無し

【6】次第

- 1 第7回議事録の承認
- 2 活動報告書まとめ
 - （1）概要説明
 - （2）意見交換
- 3 その他
 - （1）その他
 - （2）今期を振り返って

○議長 皆さん、お忙しいところを集まりいただきましてありがとうございます。今日は第29期の第8回定例会ということで、いよいよ2年の最後ということになりました。最後がオンラインということで、本当だったら皆さんでまた顔を合わせて議論を深くできたらよかったですけれども、残念ながらオンラインではありますけれども、最後の回をどうぞよろしく願いいたします。

今日も議事に従って進めていきたいと思います。前回に続いて今回もオンラインということで、速記の方が記録を取りますので、発言される方は、恐縮ですけれども、最初、冒頭にお名前を名乗ってから御発言いただきますようお願いいたします。

それから、前回の第7回の議事録の承認ですが、既に皆さんに御確認いただいているとのことなので、特に問題がないようでしたら御承認いただければ幸いです。

本日の議事録の署名についてですが、最終回ということなので、第7回の議事録と併せて、奥平委員と鍵和田委員にお願いしたいと思います。後日、完成版の議事録が送られてくるとしますので、御署名いただきますようお願いいたします。

今日、最後の回となりますので、これまでの2年間の報告書を、完成に向けていろいろ議論をしていきたいと思います。時間としては、この後、7時40分ぐらいまで議論の時間があるようで、その後、今日は最後なので、29期の全体の振り返りを皆さんから一言ずついただいて終わろうかなと思っております。

前回の素案に皆さんからいろいろ御指摘いただいたものを、ちょっと短時間で大変だったと思うんですが修正いただいておりますので、その修正点を中心に事務局の方から御紹介いただければと思います。その後、最終的にもう少しこうしたほうがいいんじゃないかと、そういった議論ができればと思います。では、よろしく願いいたします。

○事務局 改めて、皆さん、こんばんは。本日もどうぞよろしく願いいたします。

事前に皆様には、改めて修正版ということで活動報告書の案を送らせていただいたのと、第7回会議「意見交換」を受けての修正案等について送らせていただいております。その資料がこちらになります。

例えば一番上でいきますと、「方策案①地域の各種イベント等にPTAを参加させ、育成するしくみ」の「参加させ」は、PTAに強制するニュアンスになってしまわないか、無理に参加させるよりは、その局面に集まった方が楽しみながらやることができ、なおかつネットワークが広がるといった方向性かどうか、という御指摘をいただきました。それについては、活動報告書案の34ページ、35ページに修正案①、修正案②という形で2つの案

を記載してあります。

また、第3章の2提言、方策3、方策案②以降についてということで、オープンイノベーションの図やサイクル図について、そこまで議論は発展してないという御意見がありました。それよりも、ジョインターやキーパーソンの関わりや育成、そして学校と地域をつなぐジョインターはPTAの出身者が多いので、PTAが大事であるというあたりのポイントを指摘してはどうかということで、それに関しては方策1の方策案①、方策3の方策案①に関連する内容が記載されているんですが、ここの御指摘は、方策3の方策案②というところなので、そこに新たに記載するべきなのかどうか。こういうところを全体にわたって、修正案があるところや、ない部分をどうするのか。

それから50ページに、若い世代の保護者や教員の意識改革となっているんですが、「意識改革」という言葉にはやっぱり抵抗があるので、ここをどんな表現にしたらいいのかなどを、本日決めていただけると助かります。

それから、例えば赤字で、棒線は当初のものですが、無理なく参加できる仕組みづくり、こんなふうに修正をしてあります。誤字脱字も含めて、いろいろ御指摘をいただきまして、このようになっております。

また先ほども言ったように修正案①とか修正案②とかとありますので、どちらのほうがいいのかということも検討していただきたいのと、それから最後のほう、例えば42ページ辺りは、参考までに事務局が作成したということになりますので、ここまで議論していないからこれは削除だということであれば削除になってしまいますので、そうすると全体的に、特に方策案が少し薄くなってしまいますが、その分どういう形で載せていくかも検討いただけると助かります。

簡単ではありますが、私からは以上です。

○議長 ありがとうございます。ちょっと短い期間だったんですけども、皆さんにも見ていただいているかと思えます。

チェックを入れてくださった方は、御自身のチェックは覚えていらっしゃると思いますが、ほかの修正案も含めて全体のバランスも見つつということなので、すぐ議論に入れそうでしたらぜひ御意見いただきたいのですが、今の案を眺める時間が必要ということであれば、少し時間を取ってもいいかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

特に大きいところで、さっきの指摘でいうと、関わらせるとか、意識改革みたいな少し上からというか、若い人の参加がないのが問題なんだ、それを参加させるんだと、そうい

う書きっぷりがどうなのかというところをもう1回チェックして、大丈夫だろうかというようなことや、PTAが人材のリソースとして大事なのでその辺のことを強調して書くということや、あと最後の図ですね。こういった図は熟成させていく必要もあると思いますけれども、言いたいことは十分伝わるかなと思います、みんなでたくさん議論したわけでもない、入れておいてもいいか、あるいはなくなってもいいのか、あるいは文章でもう少し表現できるんじゃないかとか、いろいろその辺の議論があるかと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 全部一応見させていただいて気がついたところが幾つかあるんですが、赤字のところ以外でもいいですか。

○議長 もちろん赤字以外のところでも、委員以外の皆さんも、改めて気がついたところがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

○委員 3点ほどあります。1点目は、皆さん御存じのように、SDGsがかなり今、世界的に、世界的に標榜されているときに、サステナブルという、いわゆる持続可能なという文言がどこにもない。やっぱりできれば、この時代で持続可能なという、それをどこかに一、二か所入れたらいいんじゃないかなと思っています。それが1点目です。

それで2点目ですが、ジョインターという言葉が何か所か出てきておりますね。ジョインターという言葉が、結びつけるという意味では、いろんな地域の人材、組織を結びつけるという意味で、日本人としては非常に分かりやすい言葉なんです、正確に言うと正しい英語ではなくて、ジャパニーズイングリッシュなんです。公文書なので、このジョインターという言葉がいいのかどうかというのがちょっと気になりました。

日本人としては、ジョインターという言葉が一番よく分かりいいと思うんですが、本来英語として使うとすれば、コーディネーターか、あるいはコネクターという形になるのかなと思って、ただ、コーディネーターといいますとちょっと職業的なニュアンスが入ってくるので、その辺はちょっと皆さんの御意見をお伺いして、特に私もこだわるわけじゃないんですが、これで分かるならばいいんですが、公的な文書なのでその辺がどうかというのが気になりましたということが2点目です。

3点目は、本当に細かいところなんです、語彙的なものなので、35ページ辺りで、ほかのところにも出てくるんですが、例えば「人のつながりをしっかり持つことが大事な要素」、その上にも、「育つ環境を整えることが大事である」。この「大事」という言葉が出てくるんですが、私の好みなのかもしれないんですが、例えば「大事」を「大切」という言

葉に変えられないかなと思っているんです。公の文書でどっちが適当なのかが私も分からないところがあるんですが、例えば「人のつながりをしっかり持つことが大切な要素」とか「整えることが大切である」というふうな文言にしたらどうかなというのが3点目です。

3つのことがちょっと気になりましたので、皆さんの御意見をお伺いすればと思いました。

○議長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

まず、比較的議論をしやすいところでは、最後の3番目の「大事」であるということですね。私も、大事ですという言い方でもいいですが、大切であるという言い方のほうがより丁寧かなとは思いますが、皆さん、いかがでしょうか。特に異論がなければそうさせていただきますかと思いますが、どうでしょうか。

それからあと2つですが、最初の持続可能性ということですが、これは結構大事な概念で、私たちの議論の中でもかなり本質的な、何で連携が必要なのかというところで、そもそも大事にしなきゃいけない目標は何かというところから出てきたことでもあります。

○委員 もし入れるとしたら、例ですけれども、34ページに、「従来にはない新たな」の「新たな」を抜いちゃって、「従来にはない持続可能な連携・協働のしくみが構築されるのではないか」と、この辺に入るのかなと思ったんですが。

○議長 何となくよい感じではないかと思いますが、議論の中で出てきたのは、近いコンセプトとしては、住み続けられるまちというところですね。19ページ？ これはまだまとめではないのか、途中の議論の中で出てきました。

あと、28ページですね。第3章の2ページ目、『住み続けられるまちづくり』という大きな目標のようなことが大事で——ここは大事になっていますけれども——、子どもは未来であり、子どもが生き生きと育っているまちならば、自分も子育てしたいという人も来るだろうし、人口増にもつながる。結果、持続的なまちとなり、まちがいい状態になるのではないか」というところかと思います。

今そういうふうと言われて振り返ると、この丸の箇条書きが、これは発言の順番ですか。御意見がある意味ランダムに並んでいます。今の委員のコメントからすると、そもそもなぜ連携が必要かという根本的な部分ですね。住み続けられるまちづくりのために必要であるというところなので、これをもう少し最初のほうに持っていてもいいのかなと思っていました。

あと、一番最後の最後、持続可能なというのは、例のぐるぐる回っている図のところか

まさにその持続可能性を表現しているところです。冒頭議論がありましたけれども、この図（p42）の上の文章に、「持続可能な循環システムの構築」ということで、ここは住み続けられるまちというすごく遠くの数十年先ということだけではなくて、要は1回だけで終わらない、ずっと絶えず新しいことが起こり続ける、連携が続いていくために必要なプロセスとして書かれているところですけれども、この辺が結構大事なのかなと私も思います。

○委員 了解しました。

○議長 どうでしょう。ほかの先生方、委員の方々、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかというのがありますか。

私的にも、連携が必要だというのは、地域との連携が必要だということはずっと言われているわけですがけれども、そもそも何のために必要なのかということについては、それはいいことだろうとか、あるいはいい教育のためにとか、まちづくりのためにと、そういう双方のメリット、ベネフィットで語られてきたことが実際多いと思うんですけれども、実際に両方のもうちょっと上位概念で、地域がずっと豊かであり続けられるために必要なものであるということ、しっかりとここで明記するのは大事なことなのではないかなと思います。ぜひ御意見がありましたら。

あとは、ジョインターという言葉についてになりますけれども、まず、このサステイナブルのほうはどうでしょうか。要望しちゃうと、そもそも今言ったように、持続可能なまちづくりのための何だという目標のところを少し前のほうに持ってきていただくということは、編集的に可能でしょうか。

○委員 でも、そんなことは話し合っていないんだから、話し合っていないことをつくっちゃっていいんですか。

○議長 話し合っています。住み続けるまちづくりというのは、グループワークのときに出てきたものなので。

○委員 言い方を変えてね。SDGsの話なんじゃないのね。

○議長 すみません。私の言い方が悪かったです。最後のぐるぐる回るやつはちょっと皆さんの議論をいただきたいんですが、3章の一番最初ですね。28ページの(2)の1個前の段落に、持続的なということの意味合いが書いてあるんですけれども、最後に出てくるよりは、もうちょっと最初に出てきたほうがいいのかないかなと思いました。

そこは、そのような形にして、今ちょっと委員からの御指摘があった最後のぐるぐるのやつをどうするかということですがけれども。

○委員 今読み直しても、何かまとめのためのまとめになっちゃっていて、これはちょっとやり過ぎじゃないのと、今読んでいても思うんだけど。40ページの方策案②以下は要らないんじゃないかな。その前の方策案①で終わってもちゃんと結論が出ているから、この方策案②以降はちょっとつくっちゃっていませんかというイメージが、この報告書のためにつくっちゃっていませんかという感じがある。

○議長 今のが、方策2の中の方策案①②ということですよ。

○委員 方策案②以下はなんか。

○議長 ちなみに、①が「地域の未来を考える会の開催」で、②が「誰もが『やってみたい』を発信し共有できる場の提供」。

この辺はどうなんでしょうか。このような話も出てきたような気もするし、どうでしょうか。事務局、少し補足で伺ってもよろしいでしょうか。

○事務局 あくまでも今回のテーマに沿った形で作ってみたいということなので、これは委員がおっしゃるように、皆さんの話の中で出てきたわけではないので、参考ということで出ただけなので、特にここまで必要ないということであれば削除でも構いませんし、何かこういうのがヒントになればということで参考程度に出した部分です。

○議長 分かりました。そうすると、最初の1個目についてはそれほど違和感はないよということなんだと思うんですが、逆に積極的に入れておいたほうがいいのではないかとこの御意見もあるかもしれませんが、少し皆さんの御意見を伺いたいと思います。

どうでしょうか。確かに2つあるけれども、すごく違うものが並んでいるというわけでもない。上のほうが、どっちかというに興味ある人がちゃんと集まって実際にどんな未来を描くのかというのを話し合ってみましょうという案で、2つ目のほうは、そこまで興味がある人ばかりではなくて、むしろ地域のいろんな人が顔を合わせて思いを話せるもう少し緩やかな場も必要んじゃないか。そのために入りやすいウエルカムな場所とか、そこを切り盛りする人とか、あるいは人の思いを聞き逃さないで生かしていくことが大事になってきますよねということが書いてあるんだと思います。

いかがですか。この辺は、こういうアイデアが出たというよりも、この要素がいろいろ議論の中では出てきたとは思っています。

○事務局 先ほども言ったように、これはあくまでも参考程度に事務局で作成させていただきましたので、もし皆さんのほうで、特にこの方策案②から以降はなくてもいいんじゃないかということであれば、こちらは削除させていただきます。いかがでしょうか。

○議長 方策3のほうも、地域資源を活用しましょうということについては、そんな議論がありました。40ページのオープンイノベーションについてところは、補足していただいた部分ですね。

どうでしょうか。ちょっとこの辺は、何となく先回りして言っていることは分かるなというふうにも受け取れますが、議論をあまりしていないことを急に報告書に書くのもどうかという御意見はもっともだと思いますので、何となく議論していて、明確に企画まではできませんでしたが、まさに言わんとしていることはそういうことでしたという感じであれば採用していいでしょうし、ちょっとやっぱり唐突だなということであれば、方策案は1個ずつということになります。

私もざっと見て、1つ目、2つ目というのが2つ並んでいて、いろいろありそうだなというふうに読んじゃったので、確かに提案の部分というのをどれぐらいそのまま掲載するかというのは、ちょっと皆さんの御意見を伺いたいところでございます。

方策1については、①、②でいいわけですね。

○委員 ①、②ありますね。方策2も①、②。方策3が。

非常に分かりにくいんですけども、方策があつて、その中に方策案があるとね。

○議長 私も最初ちょっと分からなかったです。

○委員 方策1、2、3という分け方はよくまとまっていると思います。それはいいですね。だから、僕としては最後の方策案②は要らないんじゃないかなと。

○事務局 分かりました。大きく方策1、2、3の部分に、また方策案が①、②とそれぞれあったものですから、最後だけ方策案①と終わってしましますが、必ずしも全部同じ数をそろえなきゃいけないというわけでもないのです。ここは削除しましょうか。いかがでしょうか。

○委員 そのほうが分かりいいかもしれませんね。

○議長 そうですね。私としては、方策3の「従来の関係からオープンイノベーションへ」というタイトルが入っていて、オープンイノベーションの考え方を取り入れることが重要であると書いてあるんですが、オープンイノベーションって何なのということが方策案②を取るとなくなっちゃって、そうすると、それが分からない人には分からなくなってしまうので、方策案②という位置づけではなく、参考情報として、オープンイノベーションが一体どのようなことであるかというのを、注釈みたいなものを代わりに入れてもらったほうがいいのかと思いましたが、いかがでしょうか。方策というよりも、オープンイノベ

ションというのはこういう考え方です、参考までに書きましたと。

○委員 オープンイノベーションの説明がなくなってしまう。最後、ここはオープンイノベーションに持っていつているんですね。だから、方策案②のスペースにオープンイノベーションの説明が、ここは残しておいてもいいかもしれないですね。

○議長 ちょっとそこは我々の提案というのではなくて、解説記事、コラムみたいにしておいてもらえると読みやすいのではないかなと思います。

○委員 今の方策案②の「オープンイノベーションは連携・協働の発展形」というタイトルではなくて、方策案②ということではなくて、私も、参考とか何かそのような形でオープンイノベーションとはという説明としてあるのであれば、それはそれでいいのかなと思いました。

それからもう一つ、先ほど委員がおっしゃっていらしたジョインターについても、ページ数が合っているかどうか分からないのですが、方策1「連携に必要なジョインターの育成とネットワーク化」という部分に、「連携に必要な『ジョインター』とは、例えば、学校と地域をつなぐパイプ役のことである」という説明を加えていただいているんですが、この辺のところも、ジョインターという正式な名称ではなくて使うということで、この場ではこういう形で使われているということがもうちょっとはっきりと分かるような形で示されればいいのではないかなと思いましたので、この辺のところの方が分かりやすくなればいいかなと思いました。

○議長 ありがとうございます。最初のオープンイノベーションの表記の仕方について、もし皆さん御同意いただけるようでしたらそのようにしてもらおうと思います。

そして、後半のジョインターですね。大丈夫であればジョインターのところを議論したいなと思います。

最初のオープンイノベーションの記載方法は大丈夫ですか。最終的な表現は、今日この後、議論ができなければ、議長と事務局で調整させていただくということでお任せいただければと思います。

そして、ジョインターです。ジョインターという言葉というのは、私の地域グループのグループワークのほうではあまり出てきていなかったかなと、実はあまり記憶に残ってなかったりするんですが、どうでしょうか、皆さん、ジョインターという言葉遣いに違和感があるか、あるいは代案があるのか、あるいは今、委員が提案してくださったようにちょっと注釈をつけて、ここではこういうふうに使いますというような定義をして使うの

か、どうでしょうか。

○委員 先ほども言いましたように、確かに日本人には分かりやすい言葉なんだと思うんですね。今、委員が指摘していただいたようにここに説明がありますけれども、これで分かるかなと思うんですけれども、どうでしょう。学校と地域をつなぐ、確かにこれは先ほどPTAとかという、具体的に言うとそういう要素、エレメントが出てくるのかと思うんですけれども。私も、公文書なのでこの言葉がいいのかなというのがちょっと疑問に残っただけで、分かりやすければこれでいいのかな。多分、この意味は皆さん分かると思うんですね。コネクターなんかよりいいのかな。コーディネーターだと、ちょっと意味合いが違うので、あまり使いたくないなと思うんです。

○委員 コーディネーターといったら、既に役職で使われちゃっていますからね。

○委員 そうなんですよね。だから、それは避けたいなと思うんです。ただ、つなぎ役という意味ではコネクターでもいいんですけれども。皆さん、抵抗がなければ。

役所的には、これは公式な文書になりますよね。構わなければこれでいいと思います。

○事務局 特に問題はないかと思いますが、皆様の会議の意見交換の中でもジョインターというのは出てきていますので、この会議ではパイプ役をジョインターと記しているとかという注釈があれば問題ないかと思います。

○委員 この会議でつくったというか、使った言葉としてね。あまり一般的じゃないよね。聞かないから。

○委員 でも、意味は分かりますね。これで差し支えなければ、分かりやすいのが一番いいと思う。私としては、こだわりませんので、皆さんよろしく。

○議長 この辺の皆さんのイメージが整っていて、違和感がなければいいですが。私自身は、これまであまり使ったことがなかったので、皆さんの違和感がなければいいんじゃないかなと思っております。私の中のイメージとしては、その人がいるからこっち側の業界の人とこっち側の業界の人が、その人を介して知り合いが増えていくみたいな、そういういろんな人を紹介してくれるような、ハブになるような人のイメージなので、それがジョインターという言い方で違和感がなければ大丈夫かなとは思っています。

この辺についてはいろいろ皆さん思いがおありだと思うので、ぜひ聞いてみたいところです。

○委員 ここの場で、そういう役目の人をこう呼んだという形でいいじゃないですか。

○議長 最近では、ちょっと領域は違いますが、まちづくり分野では関係人口みたいな

なことが言われていて、住んではいないんだけど、そのまちのことが好きでよく行ったりとか、まちづくりに関わったりするような関わり方をしている人で、その文脈で、関係をつくっていくということがすごく大事で、観光案内じゃなくて関係案内がすごく必要。観光案内所よりも、関係案内所のほうが必要で、その関係案内人みたいな人がいると、よそから来た人がそのまちのいろんな人に会えるみたいな、そのつなぎ役がすごく大事だということと言われるので、恐らくそういうイメージもあるんじゃないかなと思うんですね。それを、ここでは「ジョインター」と言いますというふうに、今出ている「ジョインターとは、例えば」みたいなところで少し厚みを持って説明ができるといいのかなと思いました。

○委員 正式な英語をちょっと調べてみたんですが、例えばキープレイヤーとか、キーパーソンとかというのがこれに当たる、英語の世界では適する用語みたいなんですね。ただ、そう言ってもあまり日本人になじみがないから、これでいいのかなと思います。

○議長 今さらですけども、我々でオリジナルな言葉をつくれたら一番よかったですね。

○委員 これでいきましょう。

○議長 いかがですか。そもそも違和感をお持ちだった……。そうか、ここで使っていたんだからいいじゃんという話でしたね。

○委員 ジョイントという言葉が一般的なので、「ター」をつければ、大体読んだ人は分かるなど。ジョイントする人のことだとか類推ができるので。

○議長 この件については大丈夫そうですか。ありがとうございます。

それらも含めて、ほかの点もいかがでしょうか。

○事務局 よろしいでしょうか。例えばこのページでもそうなんですが、修正案①とか②とかがありますので、このあたりもどういう表現がいいのかというのを確認していただけたらと思います。

○議長 なるほど。直した直しっぷりが大丈夫かという点もということですね。

大事なところは、主には3章以降が多いかと思います。修正案ということですので、33ページ。33ページは、少し余計なことを削ったという感じですね。

○事務局 そうですね。斜線の部分が原案といますか、それを下の3行で、こういう形に修正したらどうかという御提案をいただいています。

○議長 これはこれでどうですかということですね。修正案①、②というのは、2択、A案、B案とあるということですね。

例えば34ページのジョインターのところですね。方策案①のタイトルです。「地域の各種イベント等にP T A（保護者）が無理なく参加して後継者が育つようなくみづくり」、何かよさそうな気がします。「無理なく参加」もしくは「無理なく参加できるしくみづくり」でとどめるかということですね。どうでしょうか。

「無理なく参加でき」のほうがいいかなという気もします。方策案①のタイトルのつけ方です。最初、「参加させ、育成するしくみ」と書いてあったんですけども、参加させるとかというのがちょっと上から目線なのではという御意見がありましたので、方策案①としては、「P T Aが無理なく参加して後継者が育つようなくみづくり」、修正案②として、「P T Aを無理なく参加できるしくみづくり」。②は「P T Aが」ですね。

○委員 修正案の①と②を交ぜて、「無理なく参加ができ、後継者が育つようなくみづくり」というふうに、①と②の折衷案というのはいかがでしょう。

○委員 いいんじゃないですか。「P T Aが無理なく参加でき、後継者が育つしくみづくり」、いいね。両方じゃなくて、修正案①になっちゃうのかな。

○委員 両方交ぜた形ですね。修正案①は「無理なく参加して」になっているので、「参加でき、後継者が育つようなくみづくり」として、修正案②のほうを消してしまえば、両方交ざったのができるのではないのでしょうか。

○委員 いいと思います。

○事務局 「地域の各種イベント等にP T Aが無理なく参加でき、後継者が育つようなくみづくり」でよろしいでしょうか。

○委員 はい。

○議長 あと、修正案が2つあるものは。40ページですね。方策3の方策案①の中の保護者の意識変換と言っていたところですね。

もともと保護者に主催者として関わらせる、保護者の意識を変えると書いてあったんですが、ちょっと偉そうだということで、修正案①としては、保護者が「関わることで主催者側の楽しさややりがいを知り、やがて主体的に関わり後継者となっていってくれるような環境を整えることが大事である」。

修正案②としては、「この時、主催者側とお客といった関係性ではなく、保護者世代に、自らの子どもや地域の子どものために主催者側として関わりたくなるような仕掛けをするなど、意識の転換をしてもらうことが大事である」ですね。

○委員 ①のほうですんなり入ってくる。

○議長 そうですね。①のほうは主に行動のことで、②のほうは意識が変わるといいねと。お客さんという関わりから主催者側で、そして関わるという意識を変えてもらうことが大事と言っていますが、修正案①のほうは行動が変わることを直接言っているのだから、分かりやすいと言えば分かりやすいですね。

○委員 私も、①のほうがいいかなと思ったんですが、これも「大事である」ではなくて「大切である」になるんですか。

○事務局 ここも「大切」とはしてあります。

○議長 そうなんですね。もっと言ってもいいような気もしますが、もっと言ってもというものは、主体的に関わって後継者となっていってくれるような環境を整えることが必要であるとか、不可欠であるとかぐらい言ってもいいような気もするんですけども。

○委員 そこまで言っちゃうと、無理なくがなくなっちゃうから、やっぱり上から目線はやめよう。

○議長 大切であるにしておきましょう。これは、誰がやるのかというのはちょっと、例年そうですけれども、あまり強く書くと誰だという話になりますから。

○委員 大切であるぐらいのニュアンスのほうが、①でいいんじゃないでしょうか。

○委員 今のところなんですけれども、無理なくというのは、保護者、PTAが無理なく関わられるようにすることが大切であるということで、修正案①の後段で言っているのは環境を整えることだと思うので、さっき議長がおっしゃっていたように、環境を整えることが本当に必要であるとか、それを不可欠なこととしてやっていかない限りは、将来的にPTA、保護者が無理なく参加することは無理なんじゃないかなというように気もするので、私は、逆にここは結構必要で、環境を整えることは不可欠なんだよ、必要なんだよということは強めに言っちゃってもいいのかなと読んでいて感じたところですが、いかがでしょうか。

○委員 なるほどそうですね。納得です。

○議長 必要であるか、不可欠であるかというほうで、ちゃんとこれをやらないと駄目だよということを書く方向でいきましょうか。

○事務局 あと、社会教育委員の会議主催によるシンポジウム等の開催のところ、修正案①、修正案②が出ています。

○委員 修正案②のほうを出したのは私なんですけど、修正案をこういう形でいかがでしょうかと申し上げたんですけども、いかんせんちょっと後半の文書が長いかなと思いまし

て、赤字の修正案②のところ、「ただ、いくつもの肩書きを兼務している人も多い。また、具体的にどのようにしたらいいかわからずにいる人もいるのではないか。そこで、これまでの調査・研究を活かして社会教育委員の会議や社会教育主事の主催でシンポジウムを開催し、『おやまちプロジェクト』をはじめ、区内の成功事例やジョインター相互の意見交換・交流の機会と場を設ける。」として、「また、国立や私立の学校に子どもが通っている」云々という形で、2つに文書を分けたらどうか。機会と場の設定ところで2つ並べようと思ったんですけれども、長過ぎると思ったので。ですから、「また」の後の「であるとか」というのもないです。

と申しますのは、修正案①のところにある一番最初の「一方で、現在活動されているジョインターの方は、いくつもの肩書きを持っているため」とあるんですけれども、その後の「私立学校に子どもを通わせている」云々というところに、ちょっとつながらないかなと思ったので、であるならば、地域にはジョインターの方がたくさんいると。でも、今よりももっと地域をよくしたいと思っているジョインターが必ずいるはずだと。でも、いくつも肩書きを兼務している人も多いし、具体的にどういうことをどういうふうにしたらいいか分からない人もいるんじゃないかということで、そちらにこの文書を持っていったほうが、文章がつながるかなと思いました。

○議長 ここは結構大事なところなので、丁寧に書き加えていただけて、ありがとうございます。皆さん、いかがでしょうか。

○委員 修正案②のほうが具体的に書いてあるわけですね。だから、②でいいんじゃないですか。言っていることは、①も②も同じですよ。

○議長 そうですね、具体的になっています。

○委員 確かに長いけれども重要なところですよ。これを言いたいというのは伝わる。

○委員 修正案①のほうには、社会教育主事というの文言も入れていないんですね。ただ、社会教育委員の会議で主催をするのもいいんですけれど、もう期限が切れてしまって、その後またメンバーも替わったりすると途切れる可能性もありますから、そういう点ではそれを受け継いでいただいて、前期の貧困の問題にしてもそうですし、教育委員会なり、社会教育主事の方々による主体という形で、継続的な部分もあってもいいのかなと思ったので、社会教育主事の名称もここに入れさせていただいたらいいんじゃないかなと思いました。

○議長 確かにここまで具体的に書いてあると、このシンポジウムを、誰がどのように開

催していけそうかということが想像できると思いますし、参加者の顔も見えやすくなっていると思うので、ありがとうございます。この方策案②が非常に具体的になったんじゃないかなと思いました。

特に異存がなければ、こちらの案に差し替えさせていただければと思います。

○委員 オーケーです。

○議長 40ページは、さっきのところですね。①のほうが理解しやすい、入ってきやすいという御意見がありました。

○事務局 失礼しました。ここは決定ですね。

○議長 そうですね。皆さん、異存なければ①のほうでいけるといいのかなと思います。

○委員 ①でいいんじゃないかなと思いますし、考え方自体も、①と②を比べたときに、①は文末からいうと環境を整えることが不可欠なんだよ、環境整備が大事だと言っていて、②のほうは意識の転換をしてもらうことなんだよと言っているので、どちらかという意識の転換をさせましょうというよりは、自然とそうなってくれるように環境を整えていきましょうというほうが大事だと思うので、①でいいんだと思います。

ただ、そうすると、その上の丸印以下に書いてあることとの整合性がちょっとないのかなと思うんですね。だから、保護者、地域とのつながりの必要性の認識を高めるという言葉ではなくて、保護者が地域とつながれるような環境整備みたいなことにしないと。

○議長 タイトルですね。

○委員 はい、タイトルです。

○議長 「保護者の地域とのつながりの必要性の認識を高める」になっているけれども、「保護者が地域とつながれる環境を用意する」みたいなことですね。

○委員 あるいは、保護者の認識とか意識とかということを残したいのであれば、「保護者が地域とつながろうとする必要性を感じられる環境づくり」とかというような形になるのかなと思うんです。

○議長 確かにそのとおりです。ありがとうございます。

○委員 あるいは、その必要性を認識できるような環境づくりとか、その辺の細かい文言はお任せしたいと思います。

○議長 承知しました。保護者の地域とのつながりの必要性に対する認識、認識は言わなくてもいいのかな。本文のほうで認識は書いていないですね。「地域とのつながりや認識が変わる環境をつくる」みたいな感じですかね。

○委員 今、委員がおっしゃったように、地域とのつながりが必要と感じられるような環境づくりという、すごくすんなりいった感じがしたんですけれども、安易な割と易しい言葉で非常に的確に言っているような気がいたします。つながりが必要と感じられると今おっしゃったんですが、すごくいいかなと思いました。

○議長 つながりが必要と感じられる環境づくりですね。ありがとうございます。

○事務局 あと、気になるところが、冒頭お話ししましたが、50ページです。グループワークを2回やったときの地域グループで、「若い世代の保護者や教員の意識改革」というふうに出たんですが、従来から、あまり意識改革ということは適さないんじゃないかということで、そうするとこのあたりも変えたほうがいいんじゃないかという御指摘をいただきました。

○議長 どうですか。実際出た意見ではあるがということですね。

○事務局 この部分は、参考資料という形にはなっているんですね。

○議長 いかがでしょうか。この辺は実際にそういう意見も出ましたよということで残していくか、ちょっと適切でないので引っ込めるか、あるいは書き方を変えるか。

○副議長 たしかこれは私がコーディネートしたときに出てきた意見だと思うんですが、意識改革、改革という言葉があまり適切でなければ意識の向上とか、そういう言葉でもいいのかなと。出たことは確かなので、消すのではなくて残しておく必要性はあるかなと思います。

○委員 実際に出た意見なので、それをこの場で変えてしまうのはよくないのかもしれないと思うんですが、もしかしたらちらっとお話しさせていただいたかもしれないんですけれども、私はどうしてもこの若い世代のというところに引っかかってしまって、果たして意識改革が必要なのは若い世代だけなんだろうかという気がします。それはなぜかというと、例えば現在本校の教員を見ている、本校の保護者を見ている、世代だけで分割できるものではないんじゃないかなという気がしています。ベテランじゃない若い教員でも、地域とのつながりを大事にしようという意識を持っている教員はいますし、逆にベテランでも、いやそれは関係ないよと思っちゃう教員もいたりもします。同じことが保護者にも言えるような気がしますので、これは、ただ意見として出たのであれば残さざるを得ないなと思うんですけれども。

○議長 確かにそうですね。

○委員 社会教育委員の会議の記録として残すことがどうかなというのは、分からない、

これは僕だけなのかもしれないんですが。

○議長 これは、実際若い世代というのは教員のほうにもかかっているんですか。保護者だけにかかっているんですか。

○委員 教員のほうにもかかっています。

○議長 なるほど。私は、どっちかという若い教員の人しか付き合いがないので、どっちかという管理職の方々の意識改革も大事なんじゃないかと思うんですけれども。

○委員 でも、ここではそういう一人一人のことを言ったんじゃないくて、大きなくくりとしてやはり世代ギャップのことを言おうとしたぐらいだから、やっぱり最近の若い保護者は地域協力とかになかなか目線が向いていないねということをお願いわけですね。だから、やっぱりそこは言い方が悪いと言っても、くくらないとここで言いたいことが言えなくなっちゃうね。

○議長 逆に古い世代の人の意識改革については意見は出なかったんですか。

○委員 我々しゃべっている人がみんな古いから。

○議長 両方書いてあるといいなという気もしますけれどもね。

○委員 世代間ギャップみたいなことを言えばいいじゃないですか。世代による意識の違いをすり合わせるみたいな。

○副議長 記録という意味で残しておいていいと思います。記録としては、確かにそういう文脈で出てきましたので。

○委員 この裏には、やっぱり若い人にもっと出てきてもらいたいという気持ちの表れなんですね。教員はちょっと分かりませんが、地域の中にやっぱり若い世代の保護者というのは、今、子育てに一生懸命で、なかなか地域に気が向いてこないというのが裏にあって、地域の人たちは結構お年寄りが、年配の方が多かったりするわけだから、もうちょっと若い人に出てきてもらいたいねという気持ちがこの辺に出ているのかなと思うので、若い世代を中心としたとか、そういうふうになんかグレイゾーンを入れるとかということではどうでしょうか。

○議長 ありがとうございます。そういうことなんですよ。

本文のほうでは、つまり問題としての意見はこういうふうに出ましたけれども、若い世代の意識を変えるんじゃないくて、逆に言うと、古い世代というか、今のアクティブな人たちが用意する参加の環境の在り方を変えようという読み替えになっていると思うんですね。意識を変えないといけない、悪いから変えなきゃ、足りていないから変えなきゃとい

うことではなく、参加できる環境ができていないのをどうにかしましょうというふうに言い換えているわけですね。

○事務局 24ページに現状の課題ということで、「比較的若い保護者先生の意識によって」という御発言があったので、入れてはいます。

○議長 課題の整理としてどういうふうに書いておくかですかね。本文のほうにつながっていくようにと考えると、一番最後の記録としてはそのまま出しておいていいのではないかと。それをどういうふうに解釈して次のアクションにつなげていくかというところの書き方がうまくつながるといいですね。ここは意識の向上ぐらいでよいという感じでしょうか。

そして、今の課題の整理のところ、若い世代の意識を変えるというか、今、委員がおっしゃってくださったように、本来若い方にもっと参入してほしいんだけど、なかなかそれがおぼつかない状況であると。それは、意識が低いのかもしれないし、でも、実際参加できるような環境が用意されていないとか、あるいは、今アクティブにされている側の受入れ方が変わっていく、その問題なのかもしれないというようなことを、少しいろんな視点で課題を上げていくほうがいいのかなどは思いました。

○副議長 今の御提案どおり本文のほうで、今こうやって議論をしたので、なかなか若い世代にはその時間的余裕がなかったりとか、環境がなかったりすることによってなかなかその意識が、参加意識が育みにくいというようなことを書いて、その上で委員がおっしゃっていた、一方で、若い世代のみならず、ほかの世代においても同じような傾向が見られることもある。なので、全世代的に参加がしやすいような環境、わくわくするような環境をつくっていく必要があるということ本文のほうに、記録のほうはもう記録なので、本文で今のような議論の内容を加えるのがいいのかなと思います。

○議長 ありがとうございます。皆さんよろしいでしょうか。

○委員 今の御意見、私も本文で加えるのは賛成です。もしあれならば、この部分は意見として出たことは出たのですが、その上の部分、ここは保護者だけになっているんですね。ですので、こちらも若い世代というのを取って、要するに保護者であるということは若いので、若い世代というところを取ってしまって、「保護者や教員」、ちょっと教員という言い方が私なんかは抵抗があるんですが、先生ですか。24ページですか、そちらには先生と載っていましたので、「先生の意識の」という形にしたらどうでしょうか。出たことは変わらないので、記録としてはそのままにしても、24ページのところと同じような形でできれ

ばいいのかなというふうに思ったりするんですけども、いかがでしょうか。

○議長 24ページの書き方が、現状の課題ですね。

○委員 こちらのほうが、「比較的若い保護者や先生の意識によって」となっているんですが。

○議長 ほかにも教員というのは出てきている。

○委員 「教員」というのも、ここは「先生」になっているんですね。保護者の意識をどのように変えるかというのが課題だと。ですので、若いという部分、若い世代、全体的に保護者は若いので、それを取ってしまっても記録としては間違いではないかなと思うんですけども。

それで、先ほどの御意見のように、別に若い世代だけに限らず、いろいろな世代という全体のというのは本文に加筆するという形でいいのではないかと思います。

○議長 ちょっと整理すると、後ろのほうも変えましょうという御意見ですか。

○委員 ええ。50ページは、「若い世代の」というのを取ってただの「保護者」にする。「教員」を「先生」という形です。

○議長 いかがでしょうか。

○副議長 これはちょっと、先ほど委員から出たように、記録な部分なので、若い人にも参加してほしいという意味合いがあってこういう意見交換をしたので、そこはちょっと消さないでほしいなという思いが。本文のところは、我々の委員会としての意見として書いていいと思うんですけども、今画面に映っている50ページの部分は、記録なんですよ。やりましたという、こういう意見交換をしましたということなので、一応、「若い世代の」というところは残しておいたほうがいいのかなと思います。

○委員 それもあったほうがいい。

○副議長 私も最初は消しちゃっていいんじゃないかなと思っていたんですけども、先ほど委員の意見を伺って、若い人にもやっぱり参加してほしいというような思いからそういう意見交換をしたので、それは残しておいたほうがいいかなというふうに、私は思います。

○委員 分かりました。それでしたら、別に私は全然。ただ、「教員」の部分は「先生」に変えてもいいですか。

○議長 これはどうしましょうか。ちゃんと読むと、本文の中にも教員と出てきたり、先生と出てきたりしているので、これを調整し始めると結構すごく大変と。

○委員 そうですね。

○事務局 検索をかけますので、教員になら教員、先生なら先生という形で統一はできませんが。

○議長 どうでしょう。委員の教員という言葉の違和感がどのあたりにあるかというのがもう少し知りたいと思うんですが、結構、教員のほうがたくさん出てきていて、例えば教員が変わっても地域がどんとあるとか。

○委員 先生方はあまり思われなくてもいいけれども、私ども地域の者としては、教員という言い方というのは、それこそ上から目線みたいな印象を持たれるかなと思ったりしたので、つい私なんかは抵抗があって、先生というほうがいいかなと思ってしまったんですが。

○議長 なるほど。どうしましょうね。

例えば、学習サポーターのような形で保護者や地域の方にお手伝いをいただき、教員の負担軽減にもつながるためみたいな使い方になってくると、先生の負担軽減というよりは言わんとしていることが伝わりやすいようにも思いますね。

○委員 場所によって、やっぱり教員という言い方のほうがすんなりいく場所もあるんでしょうかね。それもあってもいいかもしれませんね。この場所に関しては、私はこの場所だけ見てそういうふうになってしまったんですが、ほかとの兼ね合いで、教員のほうがその文章として適切であればそれで、その使い分けがあってもいいかなと思います。

○議長 保護者と先生というカップリングは、保護者と教員のほうが何となくしっくりくるようにも感じちゃいますけれども。

○委員 私もそう思います。使い分けはあると思います。その文章の場面によって、先生と呼んだり、教員と呼んだりするのがあってもいいと思う。ここは教員でもいいと思うんですけども。

○委員 私も、先生はいっぱいいるんですよ。国会議員も先生ですし、大学も。教員と言うと、やっぱり学校の先生と狭まるので、そういう意味なんだっただけならば教員でいいんじゃないかなと思います。

○委員 そういうふうに考えると、そうなのかもしれませんね。私は、個人的にちょっとあっただけで、別にこれがいいようであれば、それで構わないと思います。

○委員 皆さんは、グループワークとかでお話をなさったときに出た「先生」という意味合いのところは「先生」として、こうやってまとめの部分ですとか、発言でないところの

部分は「教員」というふうな使い分けにしてもいいんじゃないかと思います。ほかのところにも、校長先生のとかと出てきているところもありますし。

○議長 そうですね。ありがとうございます。確かにちゃんと見ると、学校の先生は多忙で余裕がない、担任を持っている先生と地域の人との接点は難しいみたいなことを書いているところもあれば、教員はこうすべきであるというところもあるので、どうでしょうか。私的には、今の委員の提案が非常に腑に落ちましたので、皆さんの言葉の中で「教員」という使い方をされていたり、「先生」という使い方がされたりということが、多分発言の土台となる立場によって微妙に異なるニュアンスで語られていたんだと思うので、その辺は元の発言を尊重するような形で、あえてここはいろいろあってもいいと。逆に言うと、本文で論じる場所は教員にできるだけ合わせるということで、もし差し支えなければ、そのようにさせていただければと思います。

そもそも予定の時間を念頭に置くと、残り5分ぐらいとなります。どんなことでも構いません。

○事務局 私が確認したいところは大体終了となります。先ほども言ったように修正案①、②というところでどちらかにしていただきたいということですので、あとは、細かく赤字になっているところも幾つかありますけれども、それは御覧になっているかと思うので、例えば「安心安全」だったのを「安全安心」に替えたりとか、「大事」は「大切」としてありますので、幾つか赤で入っておりますが、もし特に問題ないということであれば、最終的には、もう一度、議長、副議長、事務局で最終確認をさせていただいて、一任という形であれば、そういう形で最終的に見直しをして、また皆さんにバックすると。それが基本的には最終版という形にはなりますけれども、いかがでしょうか。

○委員 あとは議長にお任せします。

○議長 ありがとうございます。皆さん、大丈夫でしょうか。

では、最後もう一度、皆さんの御意見を反映できる形で見直して、もう一度チェックいただくという機会を経て、最終版という形にしたいと思います。

本当にありがとうございました。議論の部分はこちらで一旦終了させていただいて、万が一、何かありましたら、最終確認のときにコメントいただければと思います。それについてももしっかり意見をいただいて、最終版にしていきたいと思っております。

ということで、特に何もなければ、今期、結局コロナ騒ぎの波をもろにかぶった2年間でありましたが、なかなか始まらなかったりとか、始まってもオンラインになったりとか、

延期になったりということで、でも何とか全会議の工程、最終日までこぎ着けられました。本当皆さんありがとうございました。

最後に、一言ずつ振り返りをして終わりたいと思います。皆さん、1分程度ぐらいで感想とか今後の展望とか、何でも構いませんので一言いただければと思います。今回、29期はオンラインにもまれた期だったなということで、最後もオンラインという29期らしい締めなのかなと思いつつおりますが、皆さんいかがでしょうか。どなたからでも結構ですので、お一方ずつ御発言いただければ幸いです。

○委員 やっぱり僕は懇親会がなかったのが残念で、せっかくこうやって2年間一緒だったので、1回あればよかったなと思いますけれども。

○委員 私も、憎きコロナで、フェイス・トゥー・フェイスができなかったのがとても残念でした。でも、少しはZ o o mの使い方に慣れて、おかげさまでこれからこれでできそうかななんて思っています。着替えなくてよかったのが一番うれしかった。どうもありがとうございました。

○委員 あと、会議だけだったんですけれども、本来だともっと何か別の会合やイベントに社会教育委員として出ていくことはあったんですか。そういうのはあったんですか。

○議長 どうでしょうか。これ以外のというのは、前だとこの会の中でシンポジウムをしたりとか、我々のメンバー以外の方の御意見を伺ったりという機会をつくっていたこともありました。今回は本当に尾山台の現地見学に来ていただいたぐらいになってしまいましたね。

○委員 あと、新年子どもまつりなんかがあると出ていましたね。そういうイベントに駆り出されることはありました。

○事務局 皆さんおっしゃるとおりなんですけど、大きなイベントには出席依頼をさせていただいたところもあったり、社会教育委員の会議主催でワークショップとかそういうのをやる期もありました。今回はなかなか、コロナの関係でなかなかそういうことができなかったということもあります。

○議長 ありがとうございます。

○委員 どうぞ順番に。

○議長 委員も大丈夫ですか。

○委員 はい。

委員、どうぞ。

○委員 御指名を受けたので。なかなか慣れなくて、うまく話のタイミングができなくて、あまり発言できなくて申し訳ありませんでした。皆さんの人となり、ふだんの活動の話をもっと聞いたりして親交を深めたかったなという思いがとてもあります。Zoomだとなかなかタイミングでうまくお話しできないので、そこが残念でした。最後まで慣れなかったので、適応性がちょっと弱い自分を感じています。ありがとうございました。

○委員 私、この社会教育委員というのに今回選出させていただいて、本当にいろんな立場の方々と御一緒できたということがすごく新鮮で、本当に今、委員がおっしゃいましたけれども、直接お会いして、会議が終わった後にちょっと立ち話なんていうことで、新しい情報とかいろんなお話がもっともっとできれば本当にうれしかったなというふうに思います。コロナのせいにしてしまいますけれども、本当に残念でした。皆さんともうちょっとお話ししたかったなというのが本当のところですよ。いろいろと勉強になりました。ありがとうございました。

○委員 お世話になりました。2回ぐらい所用で抜けているので、今日出てきた内容はほぼほぼそのときあたりの話なので何もコメントはできなかったんですけども、働き方改革とコロナを、この案からはやっぱり除いておいたほうがいいのかかと、私は前の回でも言っていたと思うんですけども、それがあると結局この話が全部進まなくなっちゃうので、コロナの話と働き方改革をうまく上手に抜かないと、いろんなことが進まないかなというふうには思います。

ともかなり大変なことですけども、全てそれが理由で進まなくなるという、最も大きな課題の2つだと思いますので、その辺を最後に見ていただいたときに薄くしたほうがいいのかと私は思いました。お世話になりました。

○委員 すごくいろんな勉強をさせていただいたなと思います。それは、理屈、理論の部分だけじゃなくて、感覚的なことも、今までにはなかった自分が持っていなかったようなものも気づかせていただいたなというふうに思っています。もうすぐ任期切れということですけども、また何か御縁があったときにぜひいろいろとお話をさせていただいたらありがたいなと思っています。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

○委員 皆様、お世話になりました。ありがとうございました。私も本当に直接お会いして、毎回の会議でお会いしていろいろお話しができることが本当にはかなえば一番よかったなと思うんですが、本当にこの状況の中でオンラインでやることになって、私は、スローライフなもので自宅からもできなくて、私もこんな形の会議をするというのを思いもしませ

んでしたので、時代の流れにはついていけないんですが、これも一つのいい体験であったなと思います。

でも、やっぱり対面がいいなというのをもう痛感した次第でありまして、人間って何かこういう会議ももちろん大事なんですけれども、あの雑談、無駄話というのはすごく大事なことだなというふうに思っていて、そういう中から今回のテーマでもありますけれどもいろんなものが出てくるというがあるので、そういう点で、そういう時間が持てたら本当によかったなと思いますけれども、残念ながらそれもかなわずに期が終わってしまいますけれども、またどこかで活動している中でお目にかかることがあったら幸いかなと思います。元気でいらればと思います。よろしく願いいたします。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○議長 ありがとうございました。では、副議長、いかがでしょうか。

○副議長 本当にこの2年間どうもありがとうございました。改めて世田谷区内のいろいろな地域で活躍されている方、活躍されてきた方の意見を聞いて、改めて世田谷区はすばらしいなと感じました。どうもありがとうございました。また、大学も世田谷にありますので、うちの学生もお世話になるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

○議長 ありがとうございました。

私からも、本当に委員の皆さんと、それから事務局の皆様方に改めて御礼申し上げます。皆さんもおっしゃっていましたが、この2年間というか、本当に2年間がそのままコロナの感染が拡大した2年間だったこともあって、その影響をもろに受けて、開催の仕方自体が非常に皆さんに御苦労、負担をおかけしてしまったんじゃないかと思ったり、そもそも地域と学校の連携ですよね。その在り方自体もやっぱりいろんな意味で問い直されてきて、どっちにしろこれまでどおりのやり方を続けていくというよりは、何らかの新しい糸口をみんなで探してきたような、そういう2年間だったように感じます。

私、個人的にはこの2年間というのが、ちょうどおやまちプロジェクトで、尾山台小学校の校長が教育長になられて、それ以降の尾山台小学校、中学校との連携を実際実践の現場でやりながらのこの会議だったというのは、私自身としてもすごく面白かったというか、非常に勉強になったというか、いろんな問題も理解できるようになりましたし、逆に言うと、その可能性もすごく実践の中から、皆さんとの議論をすることによってこれからの可能性もたくさん感じられて、それがすごく私も勉強になりました。

ここでされた議論は本当に大事で、そもそも目標設定を、ちゃんと暮らす、生きると

ということ、持続可能なまち、地域であるということをも前提に教育の人たちが、まちづくりの人が、いろんな立場の人たちがどういうふうに連携していくのかという、少し大きな概念の中でもう1回学校教育、あるいは地域連携を見直していこうということとか、そのためにつながりが大事だとか、物事の起こし方というのを少し変えていくことが可能性を感じられるんじゃないか。このような議論というのは本当にどの場面でもすごく有益なことだと思いますし、まだまだ議論し尽くせなかったこと、具体的にどうすればいいんだというところについてはほとんど、時間が足りなくて深められなかったのは事実だと思いますが、そのヒントになるようなことが少し見えてきたんじゃないかな。

できれば、この報告書のみならず、皆さん現場でそういった感覚をどんどん広げていって、この会議の議論が世田谷区中に広がっていくといいなと改めて感じています。本当に大変な中、ありがとうございました。

今、私がいるのは、タカノさんちの2階をリノベーションして、今こういう状態になっていて、ここを大学の研究室にしていくと。さっきまでここに小学校の先生方が集まっていろいろ打合せをしたりそんなことが始まっています。また、4月、5月、遊びに来ていただければうれしいです。ありがとうございました。

最後に、事務局の方からも御挨拶をいただきましたら幸いです。

○事務局 社会教育係長の大井でございます。機械がないものですから、こういう形で替わって出ることになりました。本来ですと、この場は内田部長から御挨拶を差し上げるところなんです、ただいま議会の会期中で、今日は出席ができないので、代わりに一言御挨拶させていただきます。

社会教育委員の皆様には、2年間にわたり全8回の会議、誠にありがとうございました。今期は特にコロナの影響によって第1回目の開催が遅れましたこと、また、そのことに伴いまして、予定しておりました2回の定例会が開催できなくなりました。さらには、本日もそうですけれども、オンラインによる開催をしていただくなど、皆様には本当に御不便をおかけした2年間となりました。そのような中でも、議長をはじめ各委員の皆様には様々な御意見をいただき、今回の報告書を踏まえまして、今後の社会教育行政の参考とさせていただきます。なお、この報告書は教育委員会に提出いたしますけれども、関係各課や関連団体にも情報提供をさせていただきます。

結びになりますけれども、改めまして、2年間御協力いただいたことに感謝申し上げます。以上で事務局からの御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長 どうもありがとうございました。

○委員 すみません。来年の4月、来年度から、松原小学校の隣のところで子ども食堂を立ち上げようと思っています。まさに今、松原小学校の校長先生のところに御挨拶に行ったり、また地域の方にそういったことをつないでもらったりということで、今期やっていることを実践していけるかなと思っているので、またどうぞ皆様、御協力とお知恵を拝借させていただきながら、学生のボランティアさんにも来てもらいたいなとか思いはすごくあるので、これをもとに実践していきたいなと思っているので、御協力よろしくお願ひします。

○議長 すばらしい。ぜひぜひ遊びに行きたいです。

○委員 御招待したいと思いますので、皆さん、よろしくお願ひします。

○委員 頑張ってください。

○事務局 御案内いただければ、事務局から各委員の皆様には情報提供させていただきますので、委員以外にも何かありましたら事務局にお声かけいただければと思います。よろしくお願ひします。

○議長 ありがとうございます。ほか連絡事項とかは皆さん大丈夫ですか。

では、以上をもちまして、第29期の社会教育委員の会議を全て閉会いたします。2年間、改めまして本当にありがとうございました。皆様、お疲れさまでした。まだ最終チェックが残っていますが、ぜひもう一度読んでいただいてコメントをください。

どうもありがとうございました。